

佳作

努力すること

和歌山県 近畿大学附属和歌山中学校二年 大島 優奈

私はイライラしていた。私は吹奏楽部で打楽器をしている。コンクールで演奏するティンパニのたたき方を注意され、何度も教えてもらったが、一向に上達しない。

「手首に力入れて、腕全部使う。あとは、気持ちの問題やな。私を真似してみて。」

そう言われ、真似してみるが、「違うな。マレットをちゃんと握って。」

とばっさり言われてしまった。何度も何度も練習したが、先輩は渋い顔をするばかりだった。とうとうあきらめられて、

「もう、前のたたき方で良いよ。コンクールが終わってから教えるから。」

と言われてしまった。その言葉にショックを受け、その日はもう練習できなかった。

帰り道、友達にその日のことを話すと、

「何回も練習して、先輩を見返しなよ。努力したら、絶対に結果がついてくるからさ。」

と言われた。その言葉は私の負けん気に火をつけた。私の中で何かが変わるのを感じた。

次の日から、私は本気を爆発させた。マレットを強く握りすぎて手が痛くなっても、立ちっぱなしで足が痛くなってもかまわずに練習した。そのおかげか、ほめられはしないが、あまり注意されなくなつた。私は嬉しくなり、たくさん練習した。

コンクールの前日、違うパートの先輩が、「最近すごい上手になったな。ティンパニがしっかりしていると吹きやすいねん。」

「音がはつきりして、格好良くなったな。」
と言ってくれた。心があたたかくなった。

そして迎えた当日。朝、基礎練習をすませて練習しようとした時、私は楽譜にあるものを見つけた。

楽譜の隅に、「もう、言うことがないくらい上手くなったから、安心して堂々とたたき」という文章を見つけた。普段はほとんど人をほめない先輩の言葉だとは思えなかった。

本番になった。楽器を並べている時に、先輩は私の目を見て力強くうなずいた。そのおかげか、大した失敗もせずに演奏することができた。

昼食後、結果発表があった。私はドキドキして手のふるえが止まらなかった。とうとう私達の学校が呼ばれた。

「近畿大学附属和歌山中学校、金賞ゴールド。」

私達は飛び上がって喜んだ。心の緊張が解けるのと同時に涙があふれた。約半年間の努力が報われたのだ。涙を流せるだけの努力をして良かったと思う。

今回の体験で、友達の大切さがよく分かった。また、一回失敗したら、十回練習する。それでも駄目なら百回練習するというように、努力の大切さもよく分かった。このことを学生の本分である勉強にも活かしたいと思った。